

学校支援 ボランティア だより

平成27(2015)年3月(弥生)第31号(26年度第3号)

編集責任 ～学校支援コーディネーター～

地域教育力活性化協議会

高松公民館

Tel/Fax 281-8686

七郷生涯学習センター Tel 285-1377 Fax 285-1109

宇ノ気生涯学習センター Tel 283-0057 Fax 283-6652

清 流

平成26年度の学校支援ボランティアだよりも最終号となりました。今年度も学校支援ボランティアの皆様におかれましては、大変お世話になり「感謝」の一言につきます。誠にありがとうございました。

番付表と切磋琢磨

穴水町は、大相撲の人気力士遠藤関の出身地。そこの穴水中学校では年4回の社会科小テストを実施し、90点以上の生徒名を相撲の番付を真似て廊下に張り出しているのだそうです。その番付は、100点が横綱、97点以上が大関、94点以上が関脇、90点以上が小結なのだそうです。

その効果は大きいようで、以前はこの番付表には生徒の実名を載せていたとのことですが、最近は生徒自身が考えた「四股名」で貼り出すことにしたところ、さらに、小結以上を目指して努力する生徒が増えているということです。

「遠藤効果」でしょうか、素晴らしいですね。

さて、現代は競争社会。その社会に組み込まれている教育も競争から免れません。また、そのような教育力を高めることが学校や地域を活性化することも否めません。だからと言って、自分は人に負られない、誰よりも何よりも点数勝負と言うだけの点数成績主義では、歪んだ学力に繋がる可能性も大きいのではないのでしょうか。

「切磋琢磨」というたいへん聞き心地の良い言葉があります。この言葉にも競争して優劣を決すると言う意味を含んでいると思います。ただ、この言葉が持つ優劣を決するは、目的ではなく、お互いを磨き合う手段なのです。目的に向かってお互いに鍛え合い磨き合って、例えば将来、世のため人のためになる仕事について、それに備えるのが切磋琢磨の意味ではないでしょうか。

穴水中学校の取組みも切磋琢磨の一つのやり方として位置づけているのでしょうか。地域の実情に合わせた素晴らしい取組みだと思いませんか。

この事業を通して将来、現在の子どもたちが大人になったときにボランティア精神を忘れさせないためにも、皆様のお力が必要です。来年度も引き続き学校支援ボランティア事業にご協力をお願いいたします。

かほく市学校支援ボランティア事業とは・・・

